

令和 6 年 9 月 25 日

浅茂川温泉静の里・網野温泉プールの あり方・利活用についての提言

京丹後市観光立市推進会議
会長 坂上 英彦

令和6年2月に検討依頼がありました浅茂川温泉静の里・網野温泉プール(以下当該施設と表記)のあり方、利活用について、施設周辺を含めて方向性を提言します。当該施設の今後のあり方を検討する上で参考にしていただけると幸いです。

1. 提言の背景

京丹後市では、老朽化の著しい当該施設について、令和3年度に「調査及び改修方針等検討業務」を実施し、その結果を踏まえた今後のあり方について、検討が進められてきました。その上で、令和5年第5回京丹後市議会12月定例会において、令和5年度末で終了する当該施設の指定管理者の指定の期間を令和7年度末まで変更(2年延長)する議案を上程されましたが、令和6年度末までの期間変更(1年延長)とする修正可決がなされ、令和6年度末をもって指定管理による当該施設の運営が終了されることとなりました。

このような中、市では、原状復帰の工事費が多額となることや、市内に7つの外湯温泉があることなどから、行政による現状規模の当該施設の継続・維持は困難であり、「規模縮小」「用途変更」「廃止」等のあらゆる方向性について再検討を進めることとなりました。

2. 当該施設の今後のあり方

当該施設は、「市民の健康の保持と増進を図り、併せて広く観光振興の拠点として市の活性化に寄与する」ことを目的として設置されています。よって、本推進会議では、観光客だけでなく、市民も利用する施設であることを念頭に置き、「市民の健康の保持と増進」の観点を加味し、「広く観光振興の拠点として市の活性化に寄与する」という視点から検討を進めてまいりました。

まず、当該施設の現状や改修等経費の見込、利用状況、利用客を踏まえ、当該施設の修繕に係る費用や運営維持経費と利用者数の実態を勘案すると、現在の形で温泉・プール施設の維持継続は難しいと判断しました。その上で、第4次京丹後市観光振興計画との整合性と整備が進められている山陰近畿自動車道や浅茂川漁港等の周辺施設との有機的な連携を念頭に置きつつ、パブリックコメントの意見をもとに、検討を重ねてまいりました。

その結果、当該施設の今後のあり方としては、老朽化の進行と現在の観光ニーズ、また施設の状況を考慮すると、「改修、修繕を行ってまで現状の温泉施設、プール施設を継続する必要はない」という意見でまとめ、令和6年度末の指定管理期間の終了をもって当該施設を閉館し、新たな公民連携による観光を主とした活用方策を検討すべきとの結論に至りました。

3. 当該施設の活用の基本的な構想(コンセプト)

(仮称)静の里再生構想「(仮)京丹後まるごと海の観光拠点」

山陰近畿自動車道の(仮)網野 IC の将来計画を見据え、老朽化した施設を再生して、(仮称)静の里再生構想として京丹後の海の魅力をまるごと味わうことができる観光拠点を整備する。

当該施設は撤去し、眼下に海を望む高台にある立地を活かして、浅茂川漁港と一体的な誘客を図る観光拠点として可能な限り早期に再生、活用すべきであること、また施設整備に当たっては「明確な目的地となり得る魅力ある施設で、ターゲット層やシーズンを想定しつつ、多くの市民の健康増進にも利用される施設とすべき」という意見でまとまりました。

具体的には、観光客の立ち寄りができ、地域住民も家族等で利用できるものとし、温泉を活かした足湯、ロケーションを活かしたフォトスポットや、地元の海産物、農産物、お土産物などが購入でき、海を見下ろすレストランや BBQ 施設などが望まれ、ジオパーク、健康長寿をキーワードに含めた整備も期待されます。

浅茂川漁港の観光活用としては、将来の山陰近畿自動車道(仮)網野 IC との連携による集客力を高めることを視野に置き、海産物の直売所や釣り、漁業体験などの海のアクティビティ、大型観光バスが入ることができる駐車場整備などの具体例が議論されました。

4. 具体的な整備の方向性(案)

当該施設と浅茂川漁港の一体的な活用、周辺他施設との連携、また、具体的な整備は、公共だけでなく民間の活力を最大限に活かす方が望ましいといった意見を踏まえ、次のように集約しました。

第1ステップ『基盤事業構想(公共事業)』

完成目標:2027年度

まず施設の解体を行い、観光基盤的な公共事業に取り組みます。市民と観光客が共に楽しめる集客スポットを整備し、個性あるフォトジェニックな京丹後市の魅力を発信します。温泉の泉源を利用し、足湯を整備するなど、四季を通じて無料で利用できる施設とします。同時に、第2ステップの民間事業者が取り組む機運を高める誘致活動にも取り組み、継続して第2ステップへ移行することが効果的です。但し、時期が延びる場合は当面芝生広場として整備すること考えられます。

第2ステップ『観光拠点事業構想(民間活力を活かした事業)』

完成目標:2027年度以降できるだけ早期に

食と癒しをテーマに民間活力を発揮する事業者を募集し、個性のある観光拠点事業に取り組みます。地産地消を意識した食に関係する地元業者、移住者等からなるグルメタウンの形成や海鮮 BBQ、カキ小屋に加え、温泉に代わる大型サウナ施設などを想定し、健康長寿につながる観光拠点を目指します。食をテーマにした体験コンテンツを提供し、四季を通じて日常のきめ細やかなイベント等の営業活動による集客が期待されます。なお、BBQ 施設を設置した場合、砂浜などで BBQ を行っている観光客等へ当施設への誘導も必要です。特に、早期に事業の効果を引き出すため、第2ステップへの事前準備が重要で、民間企業へのヒアリング、事業化の条件、事業主体、事業手法などの調査検討は早々に実施する必要があります。

第3ステップ『(仮)海の駅事業構想』

山陰近畿自動車道の(仮)網野 IC の完成までを目標に、浅茂川漁港を活用して、団体観光客にも対応できる「海の駅」を整備します。漁業関係者が中心となり、フードコートのある海産物、農産物の地元産品のラインアップを充実した市場と駐車場を整備し、京丹後市ならではの海の体験など山陰海岸ユネスコ世界ジオパークを活用した観光事業にも取り組みます。なお、漁業者との合意形成のもと本来の漁港利用・機能を向上させる整備に留意が必要です。

5. 付帯の検討事項

① 防災機能の継承

現行施設は高台に位置し、津波時の指定緊急避難場所に設定されており、今後、当該地点を整備する際には、周辺防災施設との連携のもと、これまで以上に防災の観点を重視し、施設の整備を行うことが大切になります。

② 周辺整備計画との連携

旧網野庁舎跡地への地域の拠点施設(「(仮称)網野交流センター・交流広場」)の整備予定や、山陰近畿自動車道の網野町域への延伸計画、「アミティ丹後」などの既存施設との連携を視野に、網野エリア全体として、活性化につながるよう一体的な議論を進めることが大切です。

③ 現利用者への配慮

これまでの利用者、関係者の意見に配慮して、庁内関係部署と連携して円滑に整備を進めることを希望します。

6. その他、検討に当たり考慮した事項

考慮した事項	検討の内容、対応の方向性
現スイミングスクール機能	スイミングスクール機能については、競技スポーツの観点に加え、市民の健康の保持と増進の観点から議論することが望ましい。また、すでに市内で運営されている民間スイミングスクールの存在も考慮しつつ、公民連携の手法など庁内担当部署で、引き続き検討することが望ましい。
老朽化した小学校プール施設の代替可能性	当該施設は観光拠点に特化するため、義務教育施設として利用するには不向きで、別の用地等で対応するのが望ましい。
道の駅との競合	市内の3つの道の駅(丹後王国「食のみやこ」、「てんきてんき丹後」、「くみはま SANKAIKAN」)との機能分担による競合を回避し、海産物に特化した施設にする。
「アミティ丹後」との競合	「アミティ丹後」は伝統工芸、丹後ちりめんなどの幅広い物販で、やや地元利用が中心であるとのことであり、観光客をターゲットに、海産物に特化した物販を目指すことで競合を避ける。 場合によっては、生鮮食品、海産物等の食にかかわる部分の当該施設への集約を検討する。
旧網野庁舎跡地の再生	地域拠点施設整備計画との調整については、拠点施設の具体的な方向性が定まっていないため、現時点で調整は困難だが、今後、施設の方向性が見えてくる中で一体的な議論が必要である。
山陰近畿自動車道(仮)網野ICとの連携	山陰近畿自動車道ICの設置箇所については、現在検討が進められているが、府道浅茂川下岡線を利用すれば比較的円滑にアプローチできると想定される。ICから10分程度の範囲であり、距離の問題はない。

(参考1) 検討の経過

日程	会議及び検討事項、取組内容等
令和6年2月14日	先進地視察(神奈川県三浦市)
令和6年2月22日	令和5年度第1回京丹後市観光立市推進会議 ・浅茂川温泉静の里の現状の把握。検討部会の設置を決定。 ・3班に分かれ、グループディスカッションを行い、施設のあり方や活用方法について、それぞれ討論を実施。
令和6年3月26日	令和5年度第2回京丹後市観光立市推進会議 ・前回のグループディスカッションのまとめの共有と意見交換。 ・事務局が実施した「新たな休憩施設等に関するニーズ調査(観光事業者向け)(観光者向け)」の結果について、意見交換。 ・先進地視察(事務局)の報告と意見交換。 ・グループディスカッションの結果を受け、検討部会の臨時検討委員の決定。
	令和5年度第1回京丹後市観光立市推進会議 検討部会 ・施設のあり方や施設に必要な機能などを議論。 ・地元区長会等での説明についての事務局からの報告。

令和6年4月末～	浅茂川温泉静の里利用者ヒアリング調査実施(事務局)。 (ヒアリング実績:52名)
令和6年5月13日	令和6年度第1回京丹後市観光立市推進会議 検討部会 ・ヒアリング調査の結果について議論。 ・検討部会での視察先の検討、決定。 ・提言(中間まとめ)案の検討。
令和6年5月24日	先進地視察(兵庫県たつの市、岡山県備前市)
令和6年6月 3日	先進地視察(福井県三方郡美浜町)(事務局)
令和6年6月20日	令和6年度第2回京丹後市観光立市推進会議 検討部会 ・先進地視察の振り返り。 ・提言(中間まとめ)案の検討。
令和6年7月30日	提言書(中間まとめ)を市長へ提出
令和6年 8月 7日～27日	パブリックコメントの実施(提出意見:136 件)
令和6年8月28日	令和6年度第1回京丹後市観光立市推進会議 ・検討部会での検討状況の報告、パブリックコメントの実施結果を受け、提言の検討

(参考 2) パブリックコメント実施結果

パブリックコメントは、136件寄せられ、地域の関心が強いことに留意する必要がある。内容は、プール、温泉を残してほしいという意見が多く、その理由は健康増進のためが最も多い。

温泉を残してほしい	16 件
プールを残してほしい	77 件
温泉、プールとも残してほしい	42 件
温泉、プールとも不要	1 件
合計	136 件

(参考 3) 検討資料

- ① 当該施設の老朽化の状況、維持・更新に係る経費(資料1)
- ② 当該施設の利用状況(資料2)
- ③ 京丹後市における新たな休憩施設等に関するニーズ調査(資料3)